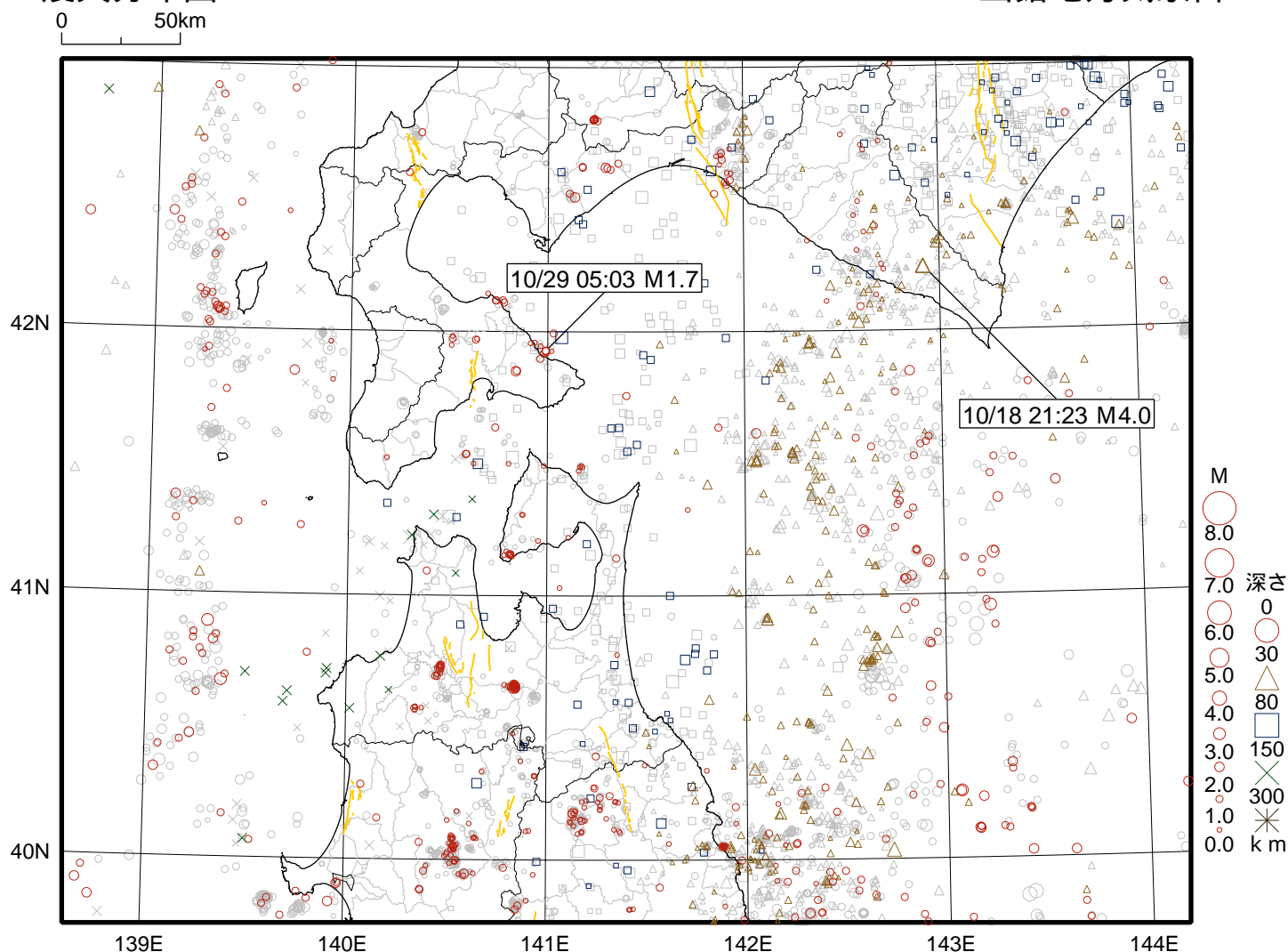


渡島・檜山地方の地震活動図

2020年10月1日～2020年10月31日

震央分布図

函館地方気象台



地震概況（2020年10月）

この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は3回（9月は4回）でした（詳細は「渡島・檜山地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

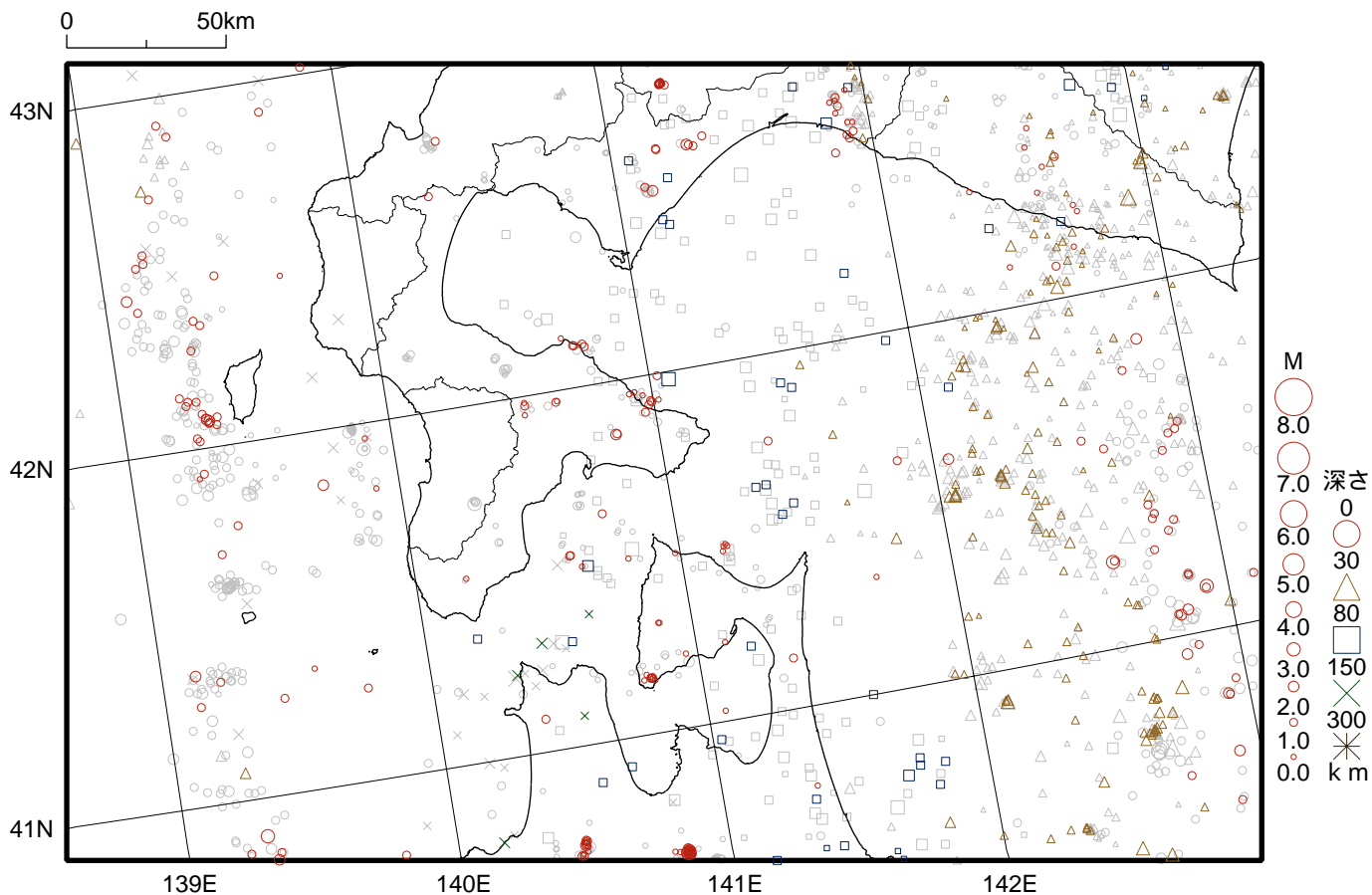
6日15時27分、岩手県沿岸南部の地震（M4.7、深さ94km、震央分布図の範囲外）により、函館市泊町で震度1を観測しました。

18日21時23分、日高地方東部の地震（M4.0、深さ54km）により、函館市泊町、函館市新浜町で震度1を観測しました。

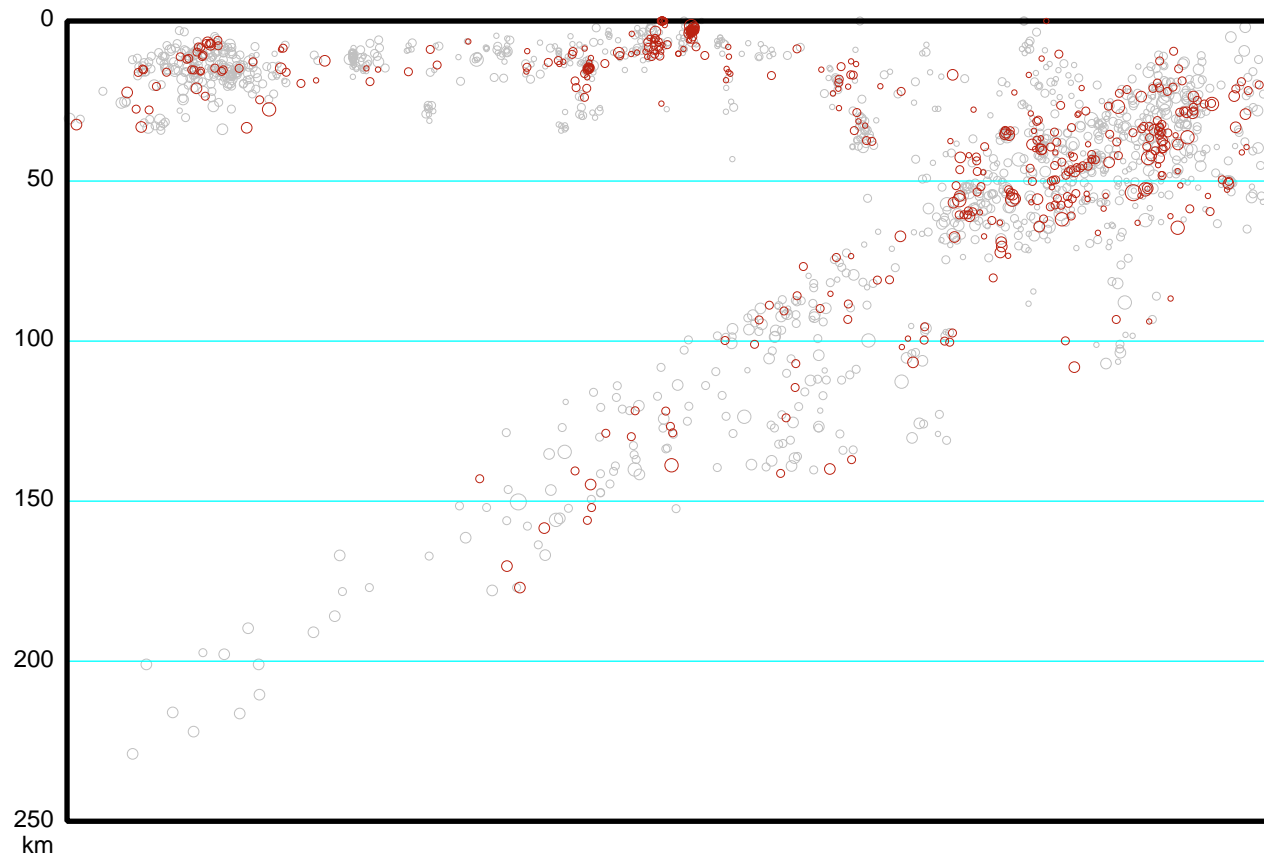
29日05時03分、内浦湾の地震（M1.7、深さ9km）により、函館市川汲町で震度1を観測しました。

2020年10月1日 ~ 2020年10月31日

震央分布図



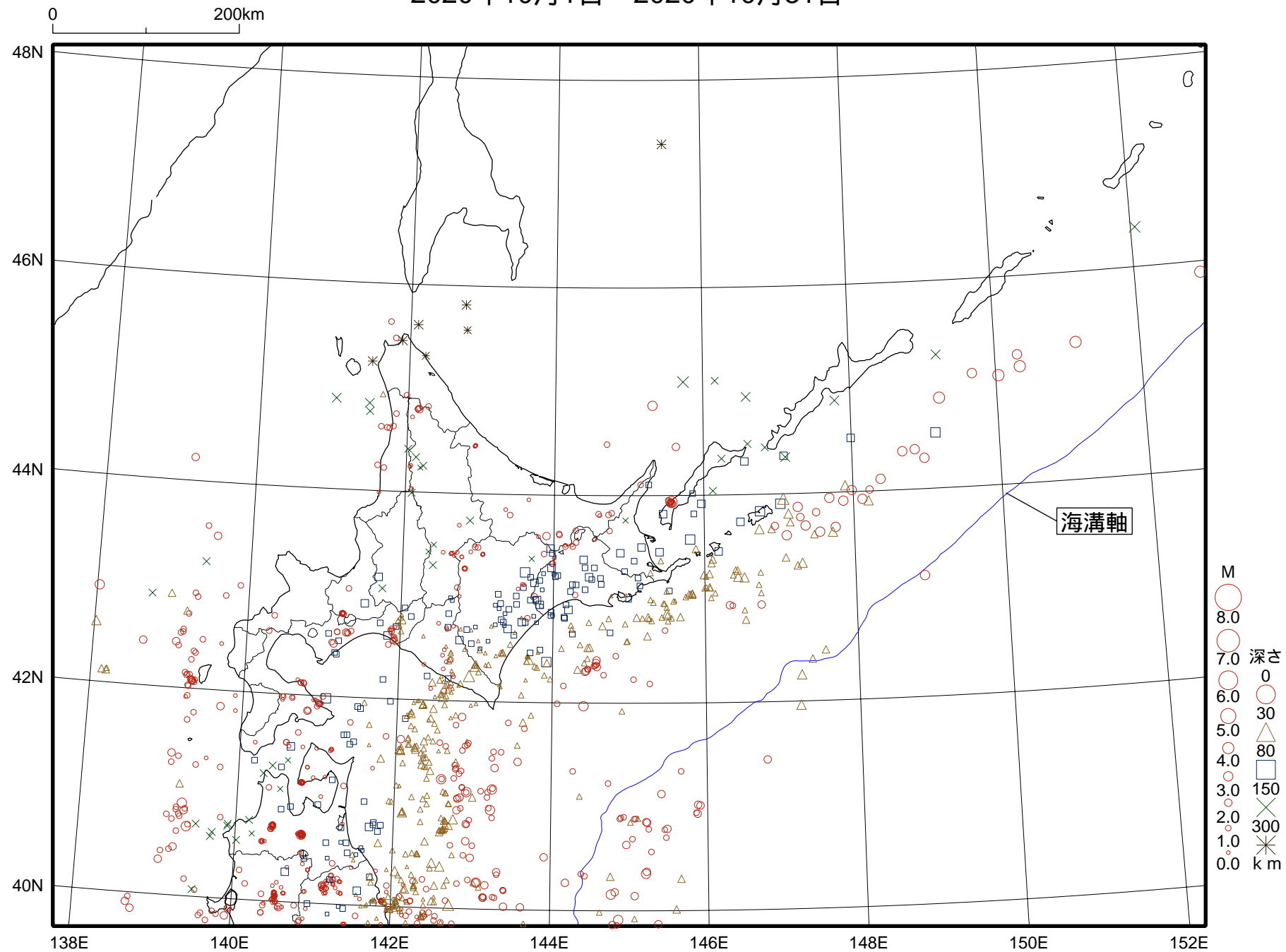
断面図



北海道の地震活動図

2020年10月1日 ~ 2020年10月31日

震央分布図



渡島・檜山地方で震度1以上を観測した地震の表（2020年10月）

| 年 月 日 地方 | 時 分 震度 | 震央地名 震度観測点名 | 北緯（N） | 東経（E） | 深さ（km） | 規模（M） |
|---------------------|---------------|------------------------------------|------------|-------------|--------|-------|
| 2020年10月6日 渡島地方 | 15時27分 震度1 | 岩手県沿岸南部 函館市泊町* (05) | 39° 23.1 N | 141° 54.8 E | 94 km | M4.7 |
| 2020年10月18日 渡島地方 | 21時23分 震度1 | 日高地方東部 函館市泊町* (05) 函館市新浜町* (07) | 42° 14.5 N | 142° 54.9 E | 54 km | M4.0 |
| 2020年10月29日 渡島地方 | 05時03分 震度1 | 内浦湾 函館市川汲町* (06) | 41° 55.6 N | 140° 59.3 E | 9 km | M1.7 |

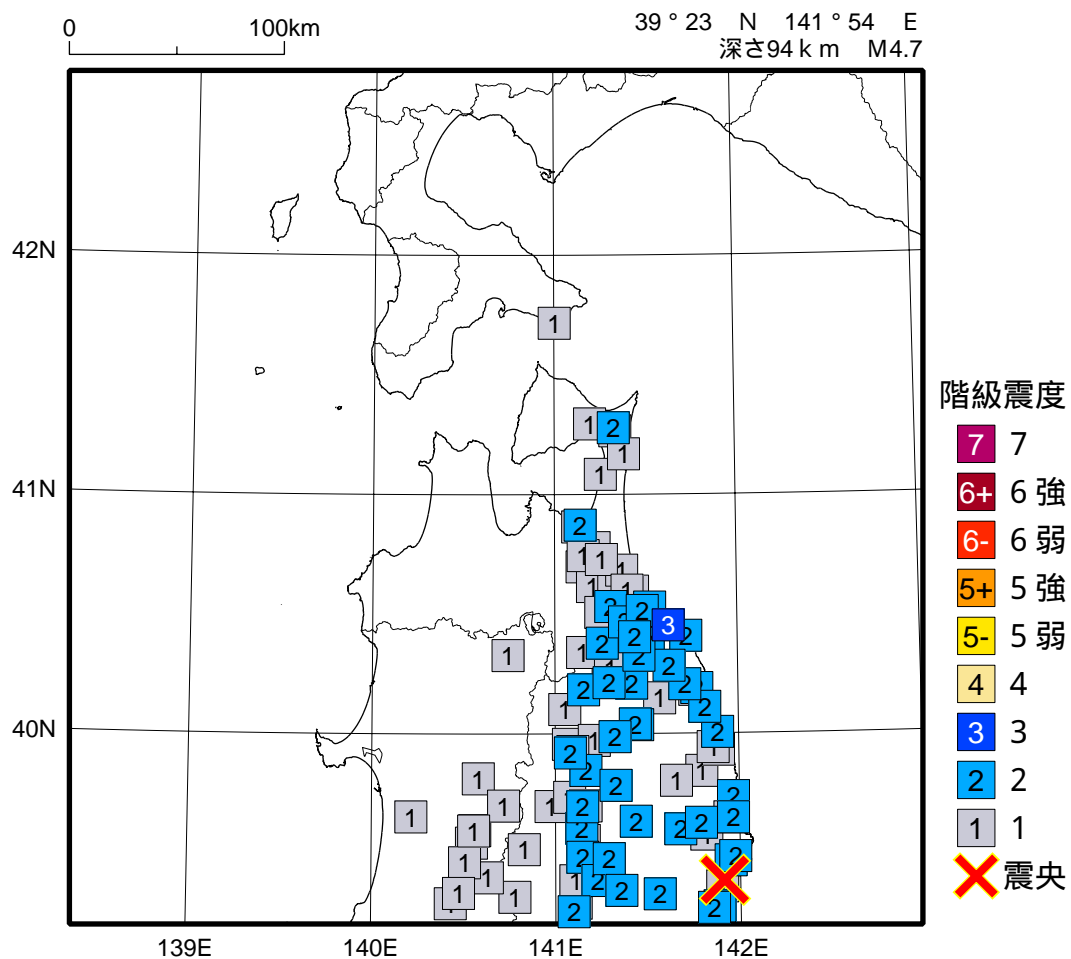
*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度（計測震度）の小数点を省略して表しています。

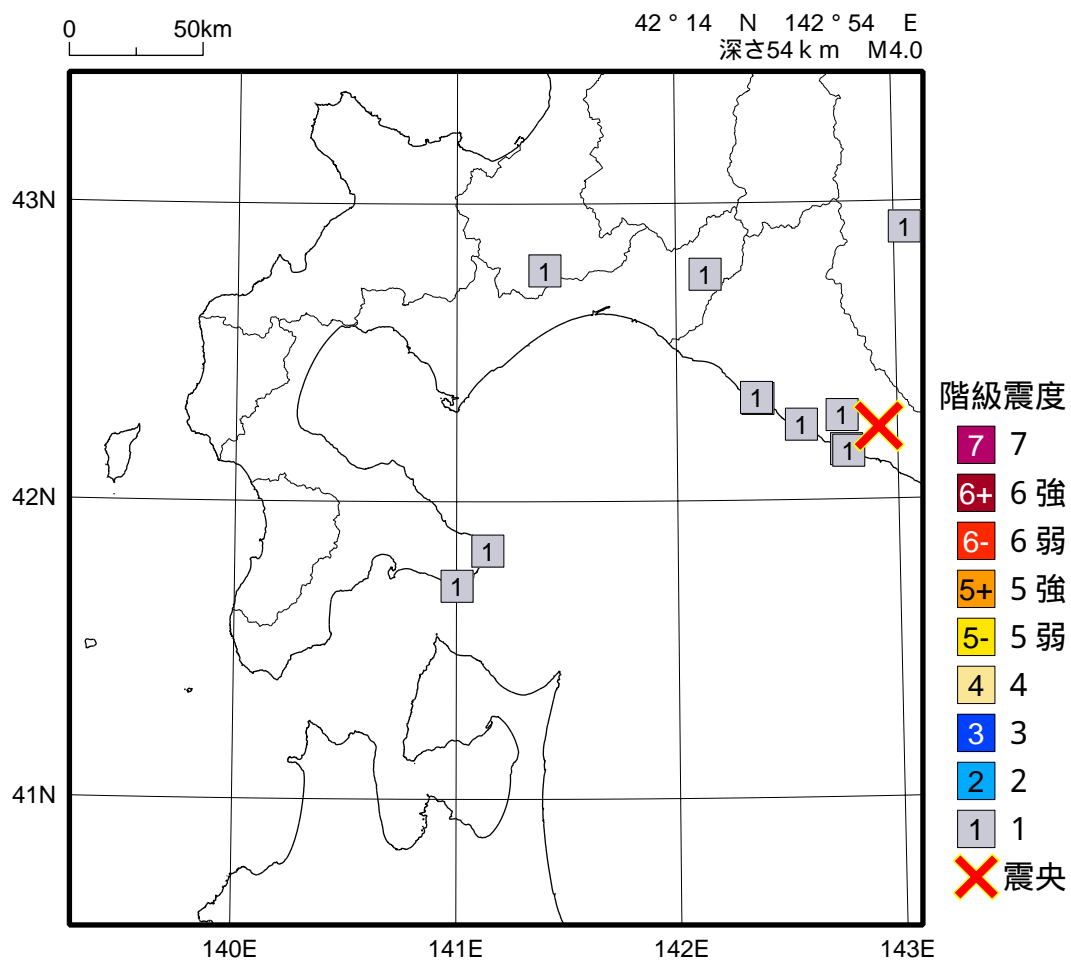
計測震度と震度階級の関係

| | | | | | | | | | | |
|------|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|------|
| 計測震度 | ~0.4 | 0.5~1.4 | 1.5~2.4 | 2.5~3.4 | 3.5~4.4 | 4.5~4.9 | 5.0~5.4 | 5.5~5.9 | 6.0~6.4 | 6.5~ |
| 震度階級 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5弱 | 5強 | 6弱 | 6強 | 7 |

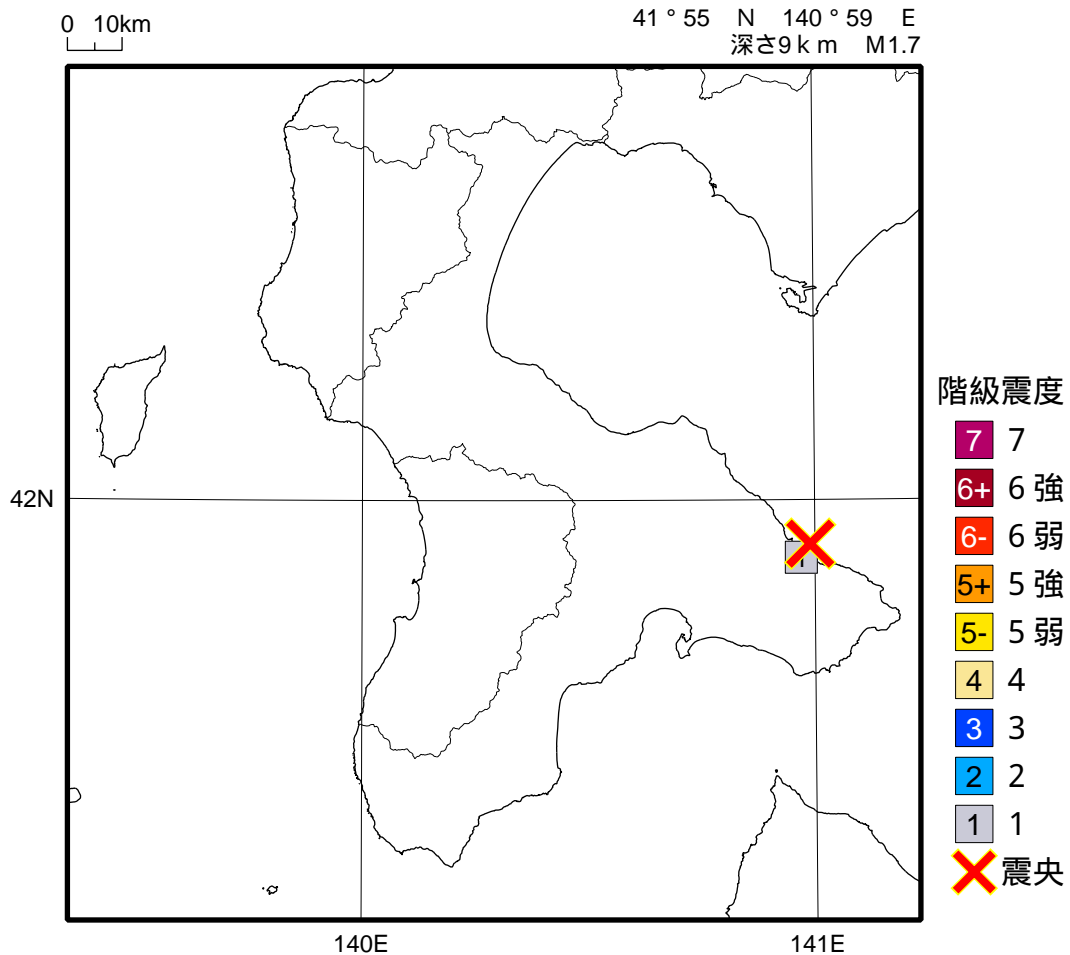
2020年10月 6日15時27分 岩手県沿岸南部の地震の震度分布図



2020年10月18日21時23分 日高地方東部の地震の震度分布図



2020年10月29日05時03分 内浦湾の地震の震度分布図



本資料の利用にあたって

- ・ 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・ 2020年4月18日から10月23日まで、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震の震源決定数の変化が見られることがあります。
- ・ 2020年9月以降の地震は、それ以前と比較して、処理方法の違い等により、震源の見かけ上の位置や震源決定数に変化が見られることがあります。
- ・ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。また、過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

【防災メモ】

～陸域の浅い地震～

地球の表面は十数枚の巨大な板状の岩盤（プレート）で覆われており、それぞれ別々の方向に年間数cmの速度で移動しています（プレート運動）。日本列島周辺では、複数のプレートがぶつかり合うため、岩盤にひずみが蓄えられます（図1）。そのひずみを解放するときに岩盤がずれ動き、地震が発生します。地震はプレート境界や海のプレート内で発生する地震（海溝型地震）のほか、陸域の浅い所（深さ約20kmより浅い所）でも発生します。この地震を「陸域の浅い地震」と呼びます（図2）。

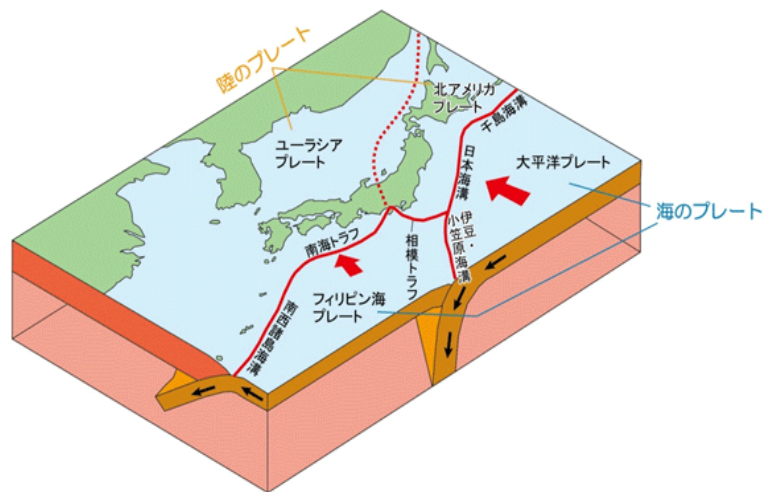


図1 日本列島周辺のプレート

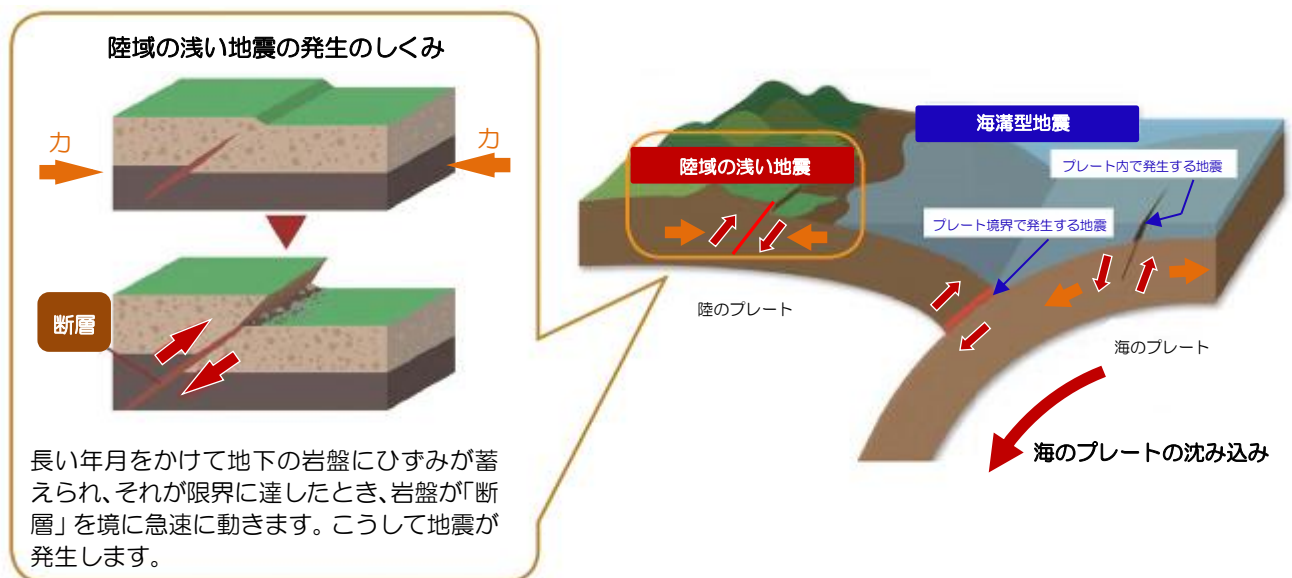


図2 日本列島周辺で発生する地震のタイプ

陸域の浅い地震は、海溝型地震と比べて、震源が浅く人の住む地域に近いので、地震の規模（マグニチュード）が小さくても、局所的に強い揺れを伴う場合があります。

陸域の浅い地震としては、平成7年（1995年）兵庫県南部地震、平成28年（2016年）熊本地震、平成30年北海道胆振東部地震などがあり、甚大な被害をもたらしました。

陸域の浅い地震の場合、震源に近い場所では緊急地震速報の発表が強い揺れの到達に間に合いません。突然の揺れを想定して事前に備えておくことが必要となります。日頃から家具の固定や身の安全を図る行動の確認などをしておきましょう。